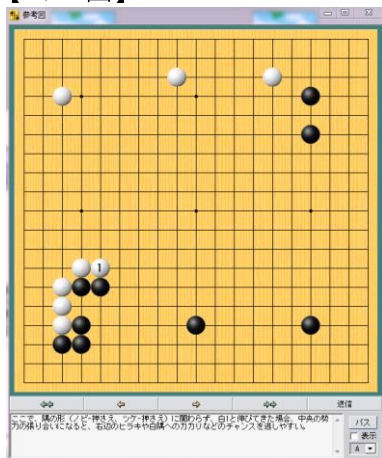


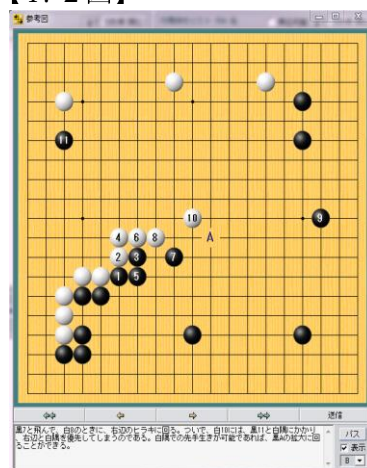
12. 中央の勢力競争を早めに切り上げる検討

【47-1 図】



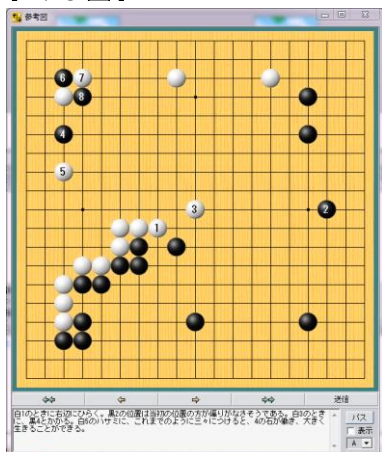
【47-1 図】ここで、隅の形（ノビ-押さえ、ツケ-押さえ）に関わらず、白1と伸びてきた場合、中央の勢力の張り合いになると、右辺のヒラキや白隅へのカカリなどのチャンス逃しがちである。

【47-2 図】



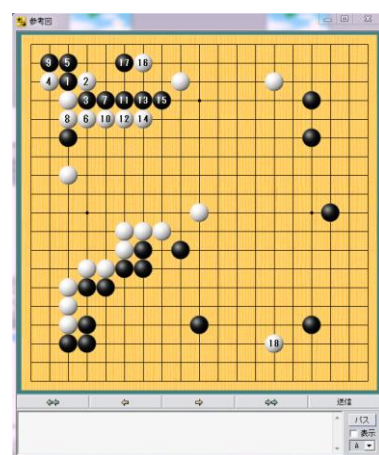
【47-2 図】黒7と1間トビで、白8のときに、右辺のヒラキに回る。ついで、白10には、黒11と白隅にかかり、右辺と白隅を優先してしまうのである。白隅での先手生きが可能であれば、黒Aの拡大に回ることができる。

【47-3 図】



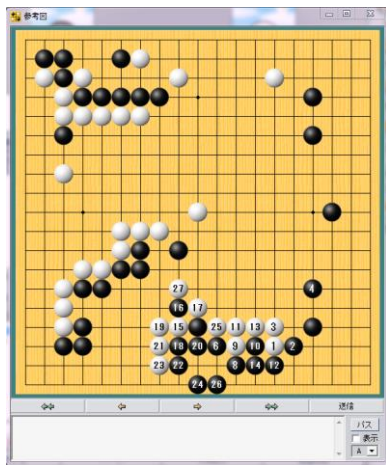
【47-3 図】白1のときに右辺にひらく。黒2の位置は当初の位置に戻した。右上の2子を孤立させないためである。白3のときに黒4と白隅にかかり、白5のハサミに、これまでのように三々につけ、切り違える。生きるのは容易である。

【47-4 図】



【47-4 図】黒17まで、生きがはっきりしたので、白18から、例の手順である。

【47-5 図】



【47-5 図】 白 1 のカカリから、白 27 (71 手目) のアテまで、これまでと同じ展開である。

【47-6 図】 白 8 のツギに、黒 9 と白のダメをつめてツグのが重要である。下辺左側の白は取れているが、A の切りを狙う。このあと、白は右上三々に入り、黒は上辺に渡らせて、先手を取り、中央を削減したが、右辺を盛り上げた方がよかったかもしれない。さらなる検討が必要である。

【47-6 図】

